

令和5年度 新潟市大規模建設事業評価監視委員会

■日時：令和5年12月26日（火） 午後2時から

■場所：新潟市役所 本館6階 第3委員会室

■出席者

○委員：唐橋委員、紅露委員、椎谷委員、根岸委員、横尾委員

○新潟市：新潟駅周辺整備事務所、行政経営課

■議事内容

1 開会

2 行政経営課長あいさつ

－行政経営課長あいさつ、事務局より配付資料説明・各委員の紹介－

3 会長選任・あいさつ

－各委員の互選により紅露委員を会長に選任、紅露会長あいさつ－

4 議事

(紅露会長)

それでは、ここから議事に入ります。

はじめに、今年度の評価の概要につきまして、事務局よりご説明よろしくお願ひしたいと思ひます。

－事務局より大規模建設事業評価制度について説明－

(紅露会長)

議事の進め方ですが、事業の担当課よりご説明いただきまして、委員の皆様よりご質問、ご意見をいただき、意見整理をしたうえで、評価、付帯意見をまとめたいと考えています。

それでは、再評価となります、新潟駅付近連続立体交差事業につきまして、新潟駅周辺整備事務所のご担当の方よりご説明、よろしくお願ひしたいと思ひます。

新潟駅付近連続立体交差事業【再評価】

－新潟駅周辺整備事務所より説明－

(紅露会長)

ご質問、ご意見のある方、ご発声いただければ、こちらからどうぞと申し上げます。いかがでしょうか。

(根岸委員)

丁寧な説明、ありがとうございました。よく分かりました。

2点伺いたいのですが、スライドの27枚目のところに費用対効果の表が載っていますが、一つ目の質問は、令和元年ごろに行った評価と今回の評価は、見込んでいる便益は同じもので、全く同じ項目を掲げてやったのかということ。

もう一つは、その他便益の5行目の、跨線橋架替費用の削減というところで、費用を削減することが便益になるというのが、少し分かりにくかったので、そこを説明していただけますでしょうか。その2点お願いします。

(新潟駅周辺整備事務所)

ご質問ありがとうございます。まず1点目の便益項目は前回評価時の便益項目と同じかという点につきまして、ここに挙げております17項目は同じ項目となっています。ただ、前回の評価から今回の評価までの間に少しずつ効果が見えている部分もありますので、そういったところは補強をしていっております。今後は、交通量調査などの定量的な調査も行いながら、便益をしっかりと見直していく必要があると考えています。

二つ目については、27ページのその他便益の跨線橋架替費用の削減についてかと思えます。こちらは、道路を平面化させなかった場合に、東跨線橋の架け直しが発生してしまいますので、平面化を早期にすることで架け直し費用が発生しないというものです。また、もし架け直しが発生した場合、その工事期間中、迂回による交通便益の低下も発生しますので、架け直ししないことによる便益として考えております。

(根岸委員)

分かりました。ありがとうございます。もともと跨線橋は架け替えを定期的にしなければいけないのだけれども、それが不要になるから、その分が便益なのだという理解なのですね。分かりました。ありがとうございます。

(紅露会長)

ほかにご質問、ご意見ありますでしょうか。

(唐橋委員)

丁寧なご説明ありがとうございました。私からは2点確認をお願いしたいのが、事業費の定義についてと、効果についてです。

まず事業費については10ページ、12ページ、14ページに載っていますが、事業費が変わらないというのは、道路整備工事が後送りしたことによる影響も、途中で下水道整備も入っていますが、こういう費用は見なくていいのか。例えば、後送りになることによって、人件費や資材価格が多分上がっていくことを見込んでいなくてもいいのか、ということ。また、

追加で出る下水道整備工事というのは、この事業費の中に含まれないのか、ということです。

効果については、26、27 ページで、その前提となる交通センサスで交通量が4分の1下がっているということが、この27ページの効果、便益の中のどこに影響して、どのくらい便益が減ったのか、ということが分かればご説明願います。また、この便益の期間が50年間と先ほど伺いましたが、50年を推計するのは難しいと思うのですが、交通量や人口などの要素は、算定に関するマニュアルはあると思うのですが、推計の中にこれらの要素が入っているのかということをお尋ねします。ただし、事業については、既に進んでいますし、波及効果はかなり大きいと思いますので、やめるというわけにはいかないという前提でお尋ねしたいと思います。

(新潟駅周辺整備事務所)

ご質問ありがとうございます。質問が二つですね。

まず事業費について、今回、3年延伸して令和9年度完成を目標としておりますが、先ほど説明したように事業費は上がりません。人件費の高騰などが生じていますが、コストダウンなど工夫しておりますので、そういった中でやりくりすることで事業費は上げないと考えております。

また、下水道の整備費は、この事業費の中に入っておりません。下水道は新潟市の下水道部の計画として整備されるという考え方としております。連続立体交差事業の事業費を使って整備するものではありませんので、下水道の整備費は外して便益の検討をしています。

二つ目の、交通量の変化に伴って、どの便益項目がその影響を受けているかについては、27ページの交通3便益のところが大きく効く項目になります。この項目は、鉄道を南北横断する交通量をベースに便益を検討しているものですので、交通量が減少すると連動して便益も下がっていきます。便益の考え方がかけ算になっており、例えば、踏切道で見ますと、待ち時間が無くなったかける台数かける原単位になりますので、台数が効いてきます。そういったところで交通3便益が影響を受ける項目になっています。

また、便益を計算する中で、50年の中で交通量や人口の変化を考慮するかしないかについては、推計がなかなか難しいです。ただ、マニュアルに沿って、社会的割引率という考え方を便益検討に反映しています。

(紅露会長)

せっかくの機会ですので、ほかの皆さんからのご発言をどうぞ。

(横尾委員)

ご説明ありがとうございます。私からも27ページの費用対効果のところでご質問させていただきます。

高架下空間の創出・利用ですが、高架下だけでなく、駅前、南口広場の公共空間も市民活動の活性化に活用できるのではないかと考えているところですが、具体的にこれから市民がどのように事業、計画に参加していくのか、ということがまだ決まっていなともお聞きしていました。そこで、この数字がどのようにして、何を想定して出されたのかというところを教えていただきたいと思います。

あわせて高架下空間の創出・利用という項目がありますが、駅の駅前広場と南口等の発展に対する効果というのは、どの項目に当てはまるのか教えてください。

(新潟駅周辺整備事務所)

きちんとした資料が今、手元にないのですが、例えば駐輪場などは高架下利用として考えているところです。もう一つの広場の整備については、広場の空間が整備されることでより快適に移動できるというところで、快適性を便益項目に挙げています。また、交通結節点の強化ということで、バスの乗り換えの時間が短縮されますので、短縮効果も評価しています。例えば、バスを南口広場でおりて万代広場で乗るという乗り換えにかかっていた時間が、高架下にバス停が集約されることで短縮されますので、その短縮される時間に対して便益を評価しています。

(横尾委員)

公共空間を例えば、一般市民が自分たちの活動の発表の場、イベント、出店など、そういった経済活動を行うような想定は、この中には入っていないということでしょうか。

(新潟駅周辺整備事務所)

現在は入っていません。今は、どれくらいの活動が見込まれるという参考になるものがないのですが、今後、事後評価をするときに、実際に表れた効果も評価をしていくので、そのときに経済活動の実績値や便益換算のための原単位があれば、ぜひ便益として検討していきたいと考えています。

(紅露会長)

ほかによろしいですか。椎谷さんは何かご発言ありますか。

(椎谷委員)

ありがとうございます。椎谷です。

視察で現地を見させていただいて丁寧な説明をお伺いし、納得しているところではあるのですが、一点、質問をさせていただきたいと思います。こういった工事が遅れるということ、地元の方とか、そういった方々は、遅れるとちょっとトラブルや苦情というようなことが起こりがちですが、今回は地元の方の要望ということもあって、特にトラブルなどは無かったと現地のときに質問させていただいてお伺いしているのですが、この駅を利用している

市民の方ですとか、利用者の方々から、本当に今、不便ですという声がたくさん入ってくるのです。特に子育て中のお母さんなど、すごく迷うとか、子どもを連れてとか、ベビーカーでなどというお話を聞いているので、遅れるということをしかりと周知されているのかどうか、質問させてください。

(新潟駅周辺整備事務所)

質問ありがとうございます。まず連続立体交差事業について、工事が遅れる場所は、現場でもご説明したように駅部ではなく、駅よりも東側であったり、駅よりも西側となっています。広場の整備がより効率よく進んで、今、ご説明いただいたような不便さが、少しでも早く解消できるように、連続立体交差事業の工程を調整して対応しているところです。例えば、駅から西側では、より効率よく少しでも早く広場整備が進むように、側道の整備を遅らせることで、その敷地を広場工車の車両動線やヤードに充てるといった、連続立体交差事業の工程調整をしています。そういった状況なので、連続立体交差事業を遅らせることで広場の整備を早く進めていますというPRは、考えておりませんでした。いただいた意見を踏まえて、何か考えてみたいと思います。

(紅露会長)

ありがとうございます。皆さん、ご発言いただいたようなので、最後に私のほうからですが、費用便益の評価については、基本的に連続立体交差事業という事業の内容を考えると、便益が出ている項目ということで、スライドの27ページにご提示いただいているのですが、基本的に効率的な部分で生み出されるものを適切に評価されているという意味では、大きな問題はないのかなという気がしています。やはり何のためにやるかということ、交通結節機能の向上とあわせて線路で分断されている部分の人の行き来を円滑にするという事業の目的を考えると、その目的に対して全体の中でかなりの部分が大きな利益を生み出すのだという見積もりについて妥当なものかなという気がしています。そういう意味で、大きいものを作る部分に比べれば、最終的な道路の整備など、工事期間が後ろに延びることに対する影響というのが、全体の費用便益の数字を見ると、さほど大きな影響がないということも、それはそうだよなという気持ちで私自身はこの数字を見ていました。

ただ、新潟市の事業を考えたときに、交通量の減少が最もインパクトが大きいというのは、今回、試算されて分かったということですが、これは今回の事業に限らず、中長期的に必要なものを更新したり、維持したり、場合によっては大きなものを作り直したりということも必要になり得たり、場合によってはどこかを開発したりということも、もしかすると地域の経済などを考えたときに、やらなければならないかもしれない。ましてや市民生活の利便性や安全を考えたときに、そういうことをやらなければいけないことを考えると、な

かなか厳しい現実だなということは、正直、感じたところです。要するに自動車交通がメインになっている構造物を多額の費用を投入して整備するということは、それなりの量があれば、それは便益が大きくなるということですが、その量が大きくならない将来が想定されている中で、そういう数のインパクトというものを見せられると、これはやはりよくよく考えていかないと、使わないからそのままということになりかねないな、ということは少し思いました。

何をもって便益にするかなどは、そのとき、そのときで社会の変化に応じて、その物差しは変わってくるものなので、難しいですね。車が減ればいいこともあるのですが、みんなが望むことが逆にしづらいということも、当然、起こり得ることであり、今回は便益が費用を上回るということなので、私個人としては、引き続きこの事業を進めていただくのがいいのかなと思っています。

あわせて今回の工事の延伸の理由についても、段取りの組み直しというのが後半のほうかなと思って見ていたのですが、前半のほうについては、基本的に必要とされるものを一括で工事を並行して進めることで、無駄なコストを削減するというねらいがあつての工程調整ということかと思しますので、私としては市民の目線で考えれば妥当な判断かなと考えているところです。

全体の総括ということで発言させていただきましたが、何か今の発言に対して、皆様からご意見とか、補足などあれば承りたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ということで、踏切がなくなったところは、先日、私も車で通りましたが、前の踏切の記憶があるだけに、いやこんなに早くすいすい行けるようになってよかったなと思って利用させていただきました。

まだ完全に竣工まではいっていないので、特に最後に残っている部分は、徒歩で駅を利用される方にご不便をかけたり、混乱を招いたりというような場所であるような気がします。その辺り、先ほどのご意見をいただきましたので、不自由を解消はできないですが、ストレスをできるだけ緩和するようなご配慮をいただくと同時に、せつかくこれだけの年数をかけて、これだけのものができあがるということで、市役所の皆さんももしかすると社会人の人生の中で最も大きな仕事で、一生涯に一回できるかできないかくらいの事業だと思いますので、市民の皆さんのわくわくドキドキを刺激していただけるといいのかなとは思いました。

ということで、参考資料については、いろいろご意見もあろうかと思うので特に言及はしませんが、さまざまな参入があつてのこういう事業なので、駅前がきれいになり、使いやすくなるということで、完全オープンするのを楽しみにしながら、事後評価をする機会がもし我々にめぐってきたときには、引き続き、厳しいことを言わせていただければありがたいな

と思っております。

予定よりも時間がオーバーしましたが、ここまでで議事を終了とさせていただきます。皆様方のご協力によりまして、議事に対して貴重なご質問、ご意見をいただきました。お礼申し上げます。どうもありがとうございました。事務局に進行をお返しします。

(事務局)

皆様、大変ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和5年度新潟市大規模建設事業評価監視委員会を終了いたします。ありがとうございました。